



2

2023  
February

No. 520

World Conference of Religions for Peace Japan



新春学習会

こころの扉—「日々の感謝の心」 木下龍輝 .....	2
第42回理事会、第25回評議員会 .....	3
新春学習会（基調講演）／茶話交流会 .....	4
新春学習会（パネルディスカッション） .....	5
2022年度公開連続講座「核時代における非戦」 .....	6
ACRPフィリピンの「ストリートチルドレンZEROキャンペーン」 .....	6
WCRP日本委員会「ウクライナ越冬支援」 .....	7
「WJアジェンダ2030」ブックレット発刊 .....	8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動 .....	8



## 「日々の感謝の心」

WCRP日本委員会  
理事 明 治 神 宮 権 宮 司

木下龍輝



令和五年、癸卯の正月、明治神宮は穏やかな晴天に恵まれました。コロナ禍が続く中、境内では大勢の参拝の方々がそれぞれ一心に祈りを捧げられておられました。特に、成人または社会人になりたての若い方々が、ご年配の方々と同様に真摯に御神前で手を合わされ、お守り、おみくじ、御朱印を大事にお持ち帰りになる姿を見するたび、あらたまの年の初めに、改めて信仰のまごころの輝きにふれる気が致しました。

さて、現在、わたくしどもは、三年間にわたる新型コ

ロナウイルス感染症の影響やロシアのウクライナ侵攻をはじめとする各地での紛争、温暖化などによる地球環境の変動、不況による生活の困窮などさまざまな問題に直面しております。殊に感染症の影響によって、人と人との交流が制限され、社会はリモートワークの利用拡大など大きな転換期を迎えております。この地球規模の変化がより良い方向に向かえばよいのですが、将来への明るい兆しをなかなか見いだし得ないのが実情です。人々が真にめざすところを見失って彷徨う今日、いま

一度、人としての原点に立ち返ってみる必要があるのではないのでしょうか。国を超え、人種を超え、世代を超え、人と人が慈しみと思いやりをもって助け合っていくにはどうしたらよいのか。それには、大いなる存在のほたつきによって、日々の暮らしを営むことができることへの感謝、さらには、困難によって自らの内面を磨くことができる有難さを心の奥処からまず実感することが肝要であると存じます。

今日の逆境を糧として、支え合わなければ生きていけない人間としての分際を知り、国と国、人と人が争い合う世界の愚かさを改めて冷静にみつめること、祖先より受け継いできた大切な伝統の心の美を今の社会に活かして子孫へ伝えることを急務として、わたくしどもは互いの環境や文化の差異を理解し合った上で、協調してこの世界をより良く作り直し、未来へ引き渡す責務があります。

昨年、WCRPのオンライン会議の席上で活動報告をお伺いし、本会が世界に果たす重要性を改めて認識致しました。各宗教にはそれぞれの特徴や教えがありますが、生きとし生けるものの幸せを願い日々の感謝の心をもって、大いなる存在に祈る目的は共通です。

自然を畏れ敬いつつ、慈愛に満ちた明るい心で、人々が共存共栄できる世をめざし、向後、本会理事としての責務を果たすとともに、日々の社頭奉仕を通し、ここ東京の代々木の杜から世界の平和と人々の心の平安を祈り続ける所存でございます。

## 第42回理事会・第25回評議員会

第42回理事会、第25回評議員会が1月26日、立正佼成会法輪閣第一会議室（東京都杉並区）でオンラインを活用し、開催された。理事会には理事22人が出席、「日本委員会人事」「2022年度執行状況・執行見込み」「2023年度事業方針・事業計画」「2023年度予算」資金調達及び設備投資の見込み「ウクライナ情勢への対応」協力／後援依頼」について審議し、可決された。引き続き行われた第25回評議員会には評議員8人が参加。審議事項はすべて可決された。

2023年度事業方針・計画では、重点活動として①諸宗教平和和円卓会議の開催②核兵器廃絶への取り組み③アジアの和解に向けた取り組み——が示された。

諸宗教平和和円卓会議については、WCRP国際委員会からの要請で、昨年9月に東京で開催された



理事会の様子

第1回東京平和和円卓会議に引き続き、23年も日本で同会議を開催する運びとなり、日本委員会として万全の準備を持って受け入れることが明記された。また、5月の



評議員会の様子

G7広島サミットの機会に、広島で核なき世界をめざすための宗教者会合を開催することや、ミャンマーへの継続した人道支援、日中韓の宗教者らの対話をさらに促進するため、韓国の宗教平和国際事業団（IPCR）国際セミナーを日本で受け入れ、開催することが決定した。また、各タスクフォース、常設機関の取り組みや「アジェンダ2030」実現に向けての実践的活動の指針が示された。

青年部会は今年、発足50周年を迎えることから、青年による新たな宗教協力を展開することが事業方針に明記された。

「ウクライナ情勢への対応」では、ウクライナ国内で市民の生活を支える宗教を基盤とした団体を支援することが決定した。これは、ロシア軍のウクライナ全土の電力施設を狙った攻撃により、ウクライナで燃料資源や暖房が不足していることを受け、昨年9月に東京で開催された諸宗教平和和円卓会議に出席したウクライナの宗教者を通じて、ウクライナ国内で越冬支援のための活動を行う2団体を支援するもの。団体の概要や支援プロジェクトについて事務局から報告された。

報告事項では、理事長業務執行状況、2023年度年間予定、「WJアジェンダ2030」ブックレットの発刊、WCRP国際委員会、アジア宗教者平和会議（ACRP）、IPCR国際セミナー、ミャンマー支援、難民支援、タスクフォースや常設部会の活動について報告がなされた。

日本委員会人事で選任された役員は次の通り。（敬称略）。

顧問（理事会が推戴、評議員会が選任）

就任…植松誠（日本聖公会主教）

ACRP執行委員（日本委員会が推薦、ACRPが承認）

退任…植松誠（日本聖公会主教）

就任…戸松義晴（浄土宗総合研究所副所長）

青年部会（青年幹事会で推薦、理事会で選任）

事務局長  
退任…西由江（立正佼成会習学部青年ネットワークグループ前次長）

就任…齋藤侑助（立正佼成会習学部青年ネットワークグループ）

幹事  
退任…山下敦司（弓矢八幡青年部顧問）

退任…西由江（立正佼成会習学部青年ネットワークグループ前次長）

退任…眞壁希予（WCRP日本委員会事務局）

就任…林大道（弓矢八幡副教主）

## 新春学習会／茶話交流会

新春学習会／茶話交流会が1月26日、立正成会法輪閣(東京都杉並区)を会場に、オンラインを併用して開催された。テーマは『戦争を超え、和解へ 諸宗教協力に基づく平和構築の実践とは』。これに約200人の宗教者らが参加・視聴した。

学習会では、黒住宗道理事(黒住教教主)の開会あいさつのもと、根本昌廣WCRP/RfP国際委員会シニアアドバイザーによる第1回東京平和円卓会議(昨年9月)の開催経緯と成果などの発表や、WCRP日本委員会事務局の安勝熙・平和推進部長による「ウクライナ難民人道支援ボランティア」の報告が行われた。

続いて、法政大学前総長で、同大学名誉教授の田中優子・江戸東京研究センター特任教授が基調講演に立った。

茶話交流会のあと、パネルディスカッションが行われ、菊地功評議員(カトリック東京大司教区大司教)、庭野光祥理事(立正成会次代会長)、尾崎元・共同通信社「メディア戦略情報」編集長がパネリストを、コーディネーターを橋本伸作・大本東京本部東京宣教センター長が務めた。

最後に、戸松義晴理事長(浄土宗総合研究所副所長・浄土宗心光院住職)が閉会あいさつを述べた。司会は、青年部会の館野

庸子幹事(解脱会青年本部事務局次長)が務めた。

### ▼基調講演(要旨)

#### 『江戸時代の価値観と幸福』

#### 田中優子・江戸東京研究センター特任教授

江戸時代は、経済という言葉の意味がいと違いました。「ものづくり」と「循環」の二つが組み合わさって経済構造ができています。経済という言葉から私たちは大量生産するとか、お金もうけとかを連想しますが、江戸時代における経済というのは、国土を運営し、物産を開発し、領地の中を豊かにして万民を救うことを意味しました。経済の「済」は、救済の「済」ですから、「ものづくり」によってすべての人を救うことが経済なんです。

それから「循環」。江戸の町は人口が集中



基調講演

して急速に都市化します。そうするとたちまち起こるのが排せつ物とゴミの問題です。当時は排せつ物もゴミも、お金をもらって引き取ってもらいます。排せつ物は農民が

土に混ぜ、微生物がそれを分解して土を豊かにする。そしてまた新しいものづくりを行うわけです。だからそこに商品化が起り、ものを循環するようになりました。

布とか紙も循環させました。徹底的にい尽くしたあとは、燃やされて灰にします。今度は灰を買う業者が仲介して、いろいろなものを洗うことに使ったり、肥料として使ったりしました。そして竹とか藁(わら)。お米を採ったあとの藁は、たとえば草鞋(わらじ)にします。草鞋で長距離を歩く。各宿場には草鞋を捨てる場所がありました。それを集めて発酵させて肥料にするからです。

食べたものの残りもすべて土に戻します。また、いろんなものを修理する職人たちが出てきます。修理するときにもお金が動きますから、経済の活性化につながるわけです。「無駄なもの」という考え方がないのです。

ノーベル文学賞を受賞したベラルーシの作家スベトラーナ・アレクシエービッチ氏に「私たちが生きているのは孤独の時代とも言えるでしょう。私たちの誰もが、とても孤独です。文化や芸術の中に人間性を失わないためのよりどころを探さなくてはなりません」という言葉があります。私はここに、宗教というものが入るといいなと思います。江戸時代の人は、宗教は文化や芸

術と同じだと思っていて、生活文化の一環でした。それが孤独から自分を救ってくれる「人間性を失わないためのよりどころ」になっていました。宗教を別のところに据えるのではなく、一つの文化として心のよきところにしていく時代に入っていくことが必要だと思います。

#### ▼パネルディスカッション（要旨）

##### 菊地功・カトリック東京大司教区大司教

私たちはこの3年間、未知であった感染症の拡大の中で、いのちの危機に直面し続けてきました。

カトリック教会の教皇フランシスコは、「このパンデミックは、私たちが頼り合っていることを浮き彫りにしました。私たちはみな互いに結びついています。この危機から、脱するためには、共に協力しなければなりません。そのうえで、調和の内に結ばれた多様性と連帯、これこそがたどるべき道です」と言われました。「互いの違いを受け入れ、支え合い、連帯することが究極的には人のいのちを守るのだ」と強調されているのです。

宗教は生きる希望を生み出す存在であるはずです。生きる希望を奪ったり、人間の尊厳を傷つけるようなことは、私たち宗教者の務めではありません。私たちは対立や排除や暴力ではなく、一致と連帯と支え合

いを進め、暗闇における小さな灯であり続けたいと思います。宗教者の連帯こそは、いまの世界に必要な平和の証しではないでしょうか。

1995年にアフリカのルワンダの難民キャンプに派遣されて、3カ月活動していたことがあります。食べる物も少ない、住む所もない、着るものもない中で、私が必要かと思うと、難民キャンプのリーダーが、「自分たちがまだいることを伝えてほしい。私たちはもう世界から忘れ去られた。忘れ去られた人をつくってはいけません」と言ったのです。それが私の活動の原点となった言葉です。宗教者は、生きる希望を生み出す存在であり続けたいと思います。

##### 庭野光祥・立正佼成会次代会長

昨年9月に第1回東京平和円卓会議が開催されました。会議の中で、ウクライナとロシアの代表の方々が激しく対立し、緊張が走る場面もありました。でも、3日間をとおして実現したことは、立場の違いを超えて、お互いの言葉に真摯に耳を傾けることでした。誰も排除せず、誰も席を立たず、お互いの苦しみを知り、言葉にできない心の痛みと叫びを聞き、たとえそれが全面的に受け入れられないことだとしても、ともにそこに居続けるということでした。それは、平和はゴールではなく平和をめざす旅だと

いう、私たちが円卓会議で大切にしたいことを体現したものだとも言えます。

私たちが大切にしているのは、「agree to disagree」意見が違ふということに同意する、同意できないということに同意するという姿勢です。自分とは違ふ、ある意味では分かり合えない相手と出会い、そこに踏みとどまってお互いを知ろうとすることで、正義と正義のぶつかり合いはありません。このことは、周囲に安心を与えることができるのではないかと思います。

##### 尾崎元・共同通信社「メディア戦略情報」編集長

イアン・ブレマーという人が主催しているユーラシアグループの2023年トップリスクでは、ロシアと中国への警戒、そして大量破壊兵器、世界恐慌、エネルギー不足などを要注意の要素として並べています。また、環境問題、水資源の不足もリスクになるとしています。こうした危機が、個別、単独で解決できる問題ではなくて、多くの問題は連環し、繋がりが合っています。気候変動と難民問題が絡んだり、それが武力紛争になったりすることがあるわけです。危機はある。ただ後世から見ると、あの時代が分岐点だったねと言われるような時代を、これからつくっていくければいいのではないかと思います。

## 2022年度公開連続講座

## 「核時代における非戦」

WCRP日本委員会と日本パグウォッシュ会議、明治学院大学国際平和研究所が共催する公開連続講座「核時代における非戦」の第3回が1月7日、オンラインで開催され、114人が参加・視聴した。テーマは『「迫りくる核戦争の危機と私たち」―核兵器廃絶と9条の世界化を求めて―』。

はじめに、共催団体代表者としてWCRP日本委員会を代表してあいさつをしたストップ！核依存タスクフォースの中村憲一郎責任者（立正佼成会参務）は、現在のウクライナ危機に触れ、「出口が見つからないまま、緊迫感に拍車をかけているような状



況なのではないか。先の大戦の反省と共に、私たちは過去のものにせず、粘り強い対話を繰り返すことで、日本が世界に果たすべき役割を果たさなければならぬ」と語った。基調講演は、反核法律家協会会長

で核兵器廃絶NGO連絡会共同代表の大久保賢一氏が務めた。大久保氏は、「防衛三文書」や近隣諸国との関係性や危険性を説明し、核兵器が使用される戦争の準備が進められている「新たな戦前」に対抗するためには、核抑止論の克服、非軍事平和思想が大事であるとし、「ひとたび戦争が起これば人道は無視され、個人の尊厳と基本的人権は蹂躪され、文明は抹殺されてしまう。原子爆弾の出現は、戦争の可能性を拡大するか、または逆に戦争の原因を収束せしめるかの重大な段階に達したのであるが、識者は、まず文明が戦争を抹殺しなければ、やがて戦争が文明を抹殺してしまうことを憂いている」と語った。

その後、広島市立大学広島平和研究所の河上暁弘准教授がコメント。視聴者からの質問に講演者とコメントーターが回答した。

※この講座の動画は、日本パグウォッシュ会議のホームページで視聴できます。

## アジア宗教者平和会議 (ACRP)

## フィリピンの「ストリートチルドレン ZERO」キャンペーン

一般社団法人アジア宗教者平和会議 (ACRP) 東京と、特定非営利活動法人アジア・コミュニティ・センター21 (ACC21)

は、2030年までにフィリピンで「ストリートチルドレン」と呼ばれる子どもたちをなくすことを目標に「フィリピンの「ストリートチルドレン ZERO」キャンペーン」を立ち上げた。

このキャンペーンは、フィリピンの現地NGOと協働して、ストリートチルドレンを対象とした支援活動や、それに携わる現地人材の能力向上に取り組むもの。フィリピン政府や自治体、国際NGOらと連携して展開するとともに、日本においても、政府や民間企業、NGO等と協力関係をつくり、一般市民にも協力の輪を広げる。具体的には、2023年はクラウドファンディングを立ち上げ、以下の活動を実施する。

## 【キャンペーン概要】

名称…フィリピンの「ストリートチルドレン ZERO」キャンペーン2023

期間…2月8日～約2カ月間

内容…①クラウドファンディングを中心とした寄付・賛同の呼びかけ

②キットオフイベント（4月8日）

詳細は、3月下旬にACRPホームページで発表されるほか、WCRP関係者にキャンペーンの活動内容が記載されたチラシを郵送する予定。

## WCRP日本委員会 「ウクライナ越冬支援」

ロシア軍のウクライナ全土の電力施設を狙った攻撃によって、厳冬の中のウクライナの人びとは暖房や燃料が不足し、非常に厳しい生活状況におかれている。WCRP日本委員会は、このウクライナの人びとが厳しい冬を乗り越えられるよう財的援助を行なった。

この支援は、昨年9月に東京で開催された諸宗教平和円卓会議に出席したウクライナの宗教者と連携して実施している。

諸宗教平和円卓会議に出席したイホル・



シヤバン博士（ウクライナ・ギリシヤ・カトリック教会宗教科対話・エキュメニカル委員会委員長）よりカトリックを

もとした支援団体Mudra Spravaを紹介された。この団体は、避難民、生活困窮者への食料やヒーターの配布を行っている。カトリック信徒だけでなく、ムスリムやユダヤ教のコミュニティ、そして市民全般に支援活動を展開している。同日本委員会は、5万ドルの支援を行った。

Mudra Spravaは、原発があるザポリージャや激戦となったオデッサにおける住民4400人をウクライナ西部に避難させるための交通支援を行った。また、5月から9月にかけて3万6千個の食支援パック（1パックは2人で1週間分）を作成し、オデッサ、ヘルソン、ミコライフ、キロヴォフロード、ザポリージャ、ハルキウ、チェルニヒウ、キーウなどで必要としている約5万人に配布した。毎週月曜日には200食の温かい昼食をキーウ近郊に位置するイルピン市立図書館の敷地内で配布している。同日本委員会からの支援は、まずは避難している人びとの2カ月分の食料支援に活用される。

同じく円卓会議に出席したエヴストラテイ・ゾリア大主教（チェルニヒフ大主教／ウクライナ正教会対外教会関係部副部長）

から紹介されたのが、Eleos Ukraine Networkである。この団体は、ウクライナ正教をベースとした慈善団体で、2014年からウクライナの14の地区において幅広く生活困窮者や障がい者へ食料支援などを行っている。同日本委員会は、5万ドルの支援を行った。

紛争が激しいケルソンの住民を避難させ、人びとのための避難所運営も行っている。また、戦争下の子どもたちの心理的ケアを行うためGreen Spaceの心理的ケアエーション施設を設け、子どもが安心して遊んだり、学習したりする場所を提供している。この冬は、食料と暖房がかなり不足しているとのことで、同日本委員会の支援はこれらに活用される。



## 「WJアジェンダ2030」 ブックレット発刊

WCRP日本委員会は、2021年11月24日に開催されたWCRP創設50周年記念式典の席上、同日本委員会の今後10年間の活動指針を示す「WJアジェンダ2030」を発表しました。

このたび、「WJアジェンダ2030」をより多くの人々に知ってもらうため、ブックレットを発刊しました。

ブックレットでは、2030年までに同日本委員会が注視するポイントや、重点的に取り組む六つのアジェンダを、イラストや写真を多く用いてわかりやすく解説しています。



また、宗教者やさまざまな分野の専門家からコメントが寄せられ、一人ひとりのより具体的な実践を促す内容となっております。ブックレットは無料で、広く配布いたします。

※ブックレットをご入用の方は、WCRP日本委員会事務局までご連絡ください。

### 今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを漢字2文字で表し、新しい熟語を作ります。

爽和（さわ）

毎年恒例だった「新春の集い」は、コロナ禍のため2年間中止していましたが、今年は「茶話交流会」として開催。参加者の皆さまに喜んでいただき、とても和やかな雰囲気でした。

### WCRPの活動

《2月》

10日～13日 IPCR国際セミナー2022

（韓国・ソウル／オンライン併用）

13日 気候危機タスクフォース「いのちの森プロジェクト」森の整備（埼玉・所沢）  
\*21日も同

20日 女性部会第5回委員会（東京・普門メディアセンター／オンライン併用）

22日 ストップ！核依存タスクフォース第6回会合（オンライン開催）

27日 総合企画委員会（オンライン開催）

ストップ！核依存タスクフォース「日本バグウォッシュ会議・WCRP・PRIME共催第4回公開講座（オンライン開催）

28日 平和研究所第8回所員会議・研究会（東京・普門メディアセンター／オンライン併用）  
青年部会第4回幹事会（京都）

### お詫びと訂正

会報1月号WCRPの活動の記事中で、「日本バグウォッシュ会議」とあるのは「日本バグウォッシュ会議」の誤りでした。確認が不十分でした。

掲載内容の無断転載を禁ず。